

2年生の実践

1 学年のテーマ

自分の考えをもたせ、関わり合う場の工夫をめざして

2 テーマ設定の理由

- ・一人学びにおいて自分の考えをしっかりとてないまま話し合いに入る子がいる。
 - ・文を読み、感覚で答えることが多く、話すことが紋切り型の子が多い。
 - ・学び合いでは自分の考えを話すことで精一杯で、友達の考えを聞き、自分の考えを補っていかうとする子はまだなく、深まりがない。
 - ・複式学級において間接指導を支える学習として一人学び・学び合いを高めたい。
- 以上のことから、自分の考えもち積極的に関わり合いながら読みを深めることができるようにこのテーマを設定した。

3 具体的な指導内容

自分の考えを持たせる工夫

- ・言葉に目を向け、言葉に沿って読み取っていく姿勢を育てるために、書くことを取り入れながら学習を進めていく。そして、正確にはっきりと読ませることを通して、一人一人のイメージを膨らませるようにする。
- ・音読を大切にし、必ず文に返り一つ一つの言葉に着目できるように支援する。

関わり合う場の工夫

- ・学び合いでは、考えを交流する前には、必ず自分の考えをもたせてから行うようにする。そして、自分の考えと友達の考えとの違いや同じ点をはっきりさせて発表できるようにする。個々の読みを関わらせ、それぞれのよさを全体に広げていくように支援する。

3 実践経過(これまでの指導内容と結果)

自分の考えをもたせる工夫

- ・物語文を読み、筋の展開をとらえたり、場面の様子や人物の様子を想像する学習を通して、場面の様子を思い描きながら、人物の気持ちを想像し、吹き出しの形で書くことができるようになってきた。
- ・中心文や重要語句を搜したり、それを手がかりに、登場人物の様子を想像する学習を進めてきたが、まだ十分とは言えない。
- ・一人学びでは、自分の考えをもてず、とまどってしまう子がいる。

関わり合う場の設定

- ・サイドラインをひいたところを発表し合い、なぜそこに引いたのか、わけを交流し合うことができるようになってきた。
- ・吹き出しに書いたことを発表し合い、それについての感想を話すことで、意見を聞き合うことができるようになってきた。

4 成果と課題

成果 視写を位置づけて取り組んできた結果、言葉への意識が高まったと思われる。サイドラインを引くときにも生かされた。様子を想像したことを音読につなげるときも文章をもとに考えようとするようになった。

成果 全体学習に入る前に、ペア、3人グループなど形態を変えながら取り組んだ。その結果どの子供も自分の考えを話すことができるようになった。またお互いの意見を出し合いながらよりよいものにしていかうとする姿も見られるようになった。音読の相互評価では文章をよりどころにした感想が出るようになってきた。

課題 人数が少ないため話し合いが深まりにくい。同じような考えに落ち着いてしまいがちである。友達の考えを聞き、自分の考えと比べることはできるが、それぞれの発表で終わってしまっている。もっとお互いが関わり合い、友達の意見を自分の考えに取り入れたり、修正したりすることができるようにしていきたい。

第2学年国語科学習指導案

日時 平成16年10月25日(月)5校時
児童 男子2名 女子4名 計6名
指導者 奥 富士子

1 単元名 様子を考えて読もう 「お手紙」

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領における第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにする」である。第1学年及び第2学年における読みの力は、書かれていることの大体をとらえることが基礎になる。そのためには、ただ漠然と筋を追って読むのではなく、順序をたどって内容をおさえたり、場面の様子を思い描きながら読みとったりすることが大切である。本単元は、場面の様子を想像しながら読み、音読や動作化などを工夫してお話を楽しむことをねらいとしている。

本教材は、一通の手紙を通して、明るく行動的で優しいかえるくんと悲観的なところのあるとがまくんの心が触れ合い、前よりもさらに深まっていく二人の友情がほのぼのと伝わってくる作品である。一度も手紙をもらったことのないとがまくんの悲しい気持ちを自分の思いとして受け止め、喜ばせてあげたいとこっそり手紙を書き、さらに届くのを一緒に待つという友情がほほえましく描かれている。かえるくんの優しさを通し、とがまくんは近くにすばらしい親友がいたことに気づくとともに、手紙をもらう幸せに浸ることができる。そして、手紙を配達する人物としてのかたつむりくんの登場が、この作品に時間的、空間的なゆったりとした広がりを与えているとともに、ユーモラスな味を加えている。叙述の面では、短文が多く全体的に簡潔で分かりやすい。かえるくんととがまくんの行動が時間的な順序にそって描かれ、場所の移動と気持ちの変化がはっきりしており、場面の移り変わりがとらえやすい。また会話文を中心に話が展開されているので、会話を対比させることによって、人物の気持ちの違いや変化を想像することができる。以上のことから、かえるくんととがまくんの会話や行動を時間的な順序にしたがって読み進めることによって、人物の気持ちの移り変わりや、心の触れ合いをとらえさせるのに適した教材であると考えられる。

(2) 児童について

子供たちは、これまで「ふきのとう」「スイミー」の2つの物語文を学習してきた。これまでの学習では、人物の様子や場面の様子を会話に気をつけながら音読したり、問題解決に結びつく文にサイドラインを引いて視写したり、教師と一緒に書き込みをしたりする活動を行ってきた。また、言葉の意味を確かめたり、ふきだしなどに書くなどの活動を通して、登場人物の様子や情景について読み取ったことを発表しようとする態度は育ってきている。しかし、長い文になると読み取りが浅く、語句や文に着目して確かに読み取っていく力は十分ではない。また、物語文では、吹き出しや手紙形式での書きまとめを行っているが、登場人物になりきって書いたり、様子を想像することが得意ではない子や、読み取ったことを知らせる活動が十分にできない子がいる。音読に関しては、練習を好み進んで取り組む子が多く、大きく口を開けてははっきりと読もうとする態度は育ってきている。しかし、問の取り方や声の調子に気をつけたり、場面の様子が表れるように工夫して読める子はまだ少ない。また、文字を読まずに暗記して読んでいる子もいる。

(3) 指導について

本教材では、会話や行動を示す言葉、挿し絵を手がかりに、音読で表現する活動を中心に学習を進めながら、かえるくんととがまくんの気持ちの移り変わりや、心の触れ合いをとらえさせたい。また、とがまくんとかえるくんの会話を対比させたり、読み方を考えさせたりすることで、かえるくんの優しさやとがまくんの悲しみが幸せへと変わっていく心の動きを読みとらせていきたい。各場面では、登場人物の様子や情景が分かる言葉や文にサイドラインを引いたり、中心的な会話や行動の文を視写したりする活動を通して、どの言葉をもとに考えていくのかをしっかりと押さえさせたい。上位の子には言葉や文の横に自分なりの思いを書き込むようにさせたい。会話が深いこの作品の特徴を生かして、ペープサート劇に取り組みさせる。人形に語らせる会話部分は、自分が劇として言うよりも感情移入しやすい面がある。劇中での登場人物どうしのやりとりを楽しませたい。その活動を通して、登場人物の様子だけでなく、説明部分の役割や叙述に気をつけるようになるだろうと思われる。

3 単元目標

場面の様子を考えながら読み、紙人形劇をしてお話を楽しむ。

4 評価規準

【関心・意欲・態度】 登場人物の特徴をつかみ、友達と協力して楽しく紙人形劇をしようとしている
【読むこと】 その時々の方々の場面の様子や人物の気持ちを想像し、人物気持ちがよく表れるように、語や文のまとめ、声の大きさなどに注意して読むことができる。

【書くこと】 どんなことが書いてあったら相手が喜んでくれるかを考えて手紙を書くことができる。

【言語事項】 会話文と地の文を区別することができる。

5 指導計画（読むこと1 2 書くこと2 1 4時間扱い）

過程	時	指導目標	学習活動	重点指導の内容
つかむ	1	全文を読みあらすじをとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> 全文を読み、あらすじをつかみ、初発の感想をまとめる。 新出漢字、難語句について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を手がかりにあらすじをとらえられるようにする。 人物を確認して、登場人物で面白いと思ったことを話し合わせ感想をまとめさせる。
	2		<ul style="list-style-type: none"> あらすじや感想をもとに、学習のめあてを確認する。 5つの場面に分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想を書いたものをもとに学習課題をもたせる。 音読を中心とした学習への意欲を高める。
ふかめる	3	場面の様子を考えて音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 第1場面を読み、音読の仕方を考え、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> がまくんが悲しいわけを説明している会話文を手がかりに、かえるくんの心情を想像できるようにする。
	4		<ul style="list-style-type: none"> 第2場面を読み、音読の仕方を考え、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんの行動が書かれている地の文の表現に注意し、その心情を読み取れるようにする。
	5		<ul style="list-style-type: none"> 第3場面を読み、音読の仕方を考える、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんの言葉や行動と、それに対するがまくんの行動から2人の心情の相違点に気づくことができるようにする。
	6		<ul style="list-style-type: none"> 第4場面を読み、音読の仕方を考え、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を見比べて、2人の気持ちの変化に気づかせる。 なぜ2人も幸せな気持ちなのか話し合わせる。
	7		<ul style="list-style-type: none"> がまくんになって、かえるくんにお返事を書き、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> がまくんになりきって、お礼を伝えて、喜んでもらえる手紙を書くことを伝える。
	8		<ul style="list-style-type: none"> 第5場面の読み方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 四日間の2人の会話について想像を広げさせる。第1場面と対照的であることを意識した音読になるようにする。
まとめる	9	紙人形劇発表会をする。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な人形・背景を話し合って準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み方や動かし方を工夫すれば、一体の人形でも多くの表現になることを伝える。
	10		<ul style="list-style-type: none"> 役割を決めて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に合わせて動かし方を工夫させる。位置、向き、動きを考えるよう例を示す。
	11		<ul style="list-style-type: none"> 発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に見てもらう。
ひろげる	12	友だちに手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 発表会のよかったところを手紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 頑張ったこと、上手にできていたこと等、具体的な場面を思い出し、順序よく書けるようにする。
	13		<ul style="list-style-type: none"> 手紙をくれた友だちにお礼の手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙をもらってうれしかったことを返事として書かせる。
	14	他のお話を読む。	<ul style="list-style-type: none"> アーノルド＝ローベルの作品を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> がまくんとかえるくんの他のお話を読み聞かせたり、紹介したりする。

3年生の実践

1 学年のテーマ

自分の考えをもたせ、関わり合う場の工夫をめざして

2 テーマ設定の理由

・ 答えが文章中のどこかにある場合はどの子もよく発言しようとするものの、答えが文章中になく自分で考えたことを発言しなければならない場合は、まとめることができない子が多い。
・ 学び合いでは、互いの発言を聞き合き、友達の考えを自分の考えに取り入れたり、友達の言ったことと関連させながら話すまでには至っていない。
・ 複式学級において間接指導を支える学習として一人学び・学び合いを高めたい。
以上のことから、自分の考えをもち積極的に関わり合いながら読み深めることができるようにこのテーマを設定した。

3 具体的な指導内容



自分の考えを持たせる工夫

- ・ ワークシートを与える前の導入を工夫する。
- ・ 文脈や言葉に気をつけることができるような 補助発問を工夫する。
- ・ 漠然と読み進めるのではなく、内容を考えながら、音読ができるようになるまで、練習に取り組ませる。

関わり合う場の工夫

- ・ ペア学習やグループや全体での話し合いによって、友達の意見を聞き、さらに自分の考えを深められるようにする。交流により自分の考えが高められるように支援を工夫する。
- ・ 考えの共通点や違いを知り、お互いのよさを認め合えるようにする。

3 実践経過



- ・ 重要語句や中心文を見つけ、視写をしたり、サイドラインを引いたりする学習をしてきたが、大切な文や言葉を見つけることができても、自分なりにどう読み取ったらいいのか分からない状態である。
- ・ 学習シートを使用し、必ず自分の考えをもって学び合いに臨むようにしてきた。自分の考えを書こうとする姿勢はできてきているもののまだ十分といえない。

- ・ ペア学習により、自分の考えを必ず話し、相手の考えをしっかりと聞くようになってきた。
- ・ ペア学習で話すことにより、みな全体の場でも自分の考えを発表することができるようになってきたが、ペアでの話し合いによって考えの高まりがなく、同じことの繰り返しになっている。

4 成果と課題



成果 繰り返し音読練習に取り組ませたことにより重要語句や文をさがすことに抵抗なく取り組めた。重要語句から場面の様子や登場人物の心情を想像し、書き込みをしたことで、自分の考えをもってグループ学習に臨むことができた。

成果 考えのよりどころとなる語句を発言の中に位置づけるようにしたことで、叙述に基づいた話し合いができるようになってきた。友達の考えを聞き、自分の考えをふり返ることができるようになってきた。

課題 平易な文章であっても、何度も読み、ある程度読み慣れないと内容を深く考えることができない子どもがまだまだ多い現状である。一人一人が1時間ごとに読みの課題をしっかり把握し授業に向かえるようにすること、課題解決のための見通しを持たせることにもっと力を入れていかなければならない。また長文とじっくり向き合える時間を確保するようにしたい。

第3学年国語科学習指導案

日時 平成16年10月25日(月)5校時

児童 男子3名 女子6名 計9名

指導者 奥 富士子

1 単元名 場面の様子を想像しながら読もう 「ちいちゃんのかげおくり」 光村図書3年下

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにする。」である。内容としてはウ「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」とカ「書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと」を中心に指導していく。

本教材は、「かげおくり」という遊びを題材にして書かれた、戦争への静かなレジスタンスである。戦争をモチーフとした物語であるが、その悲惨さを生々しく訴えるのではなく、淡々と描かれた中に、かえって戦争の残酷さを感じさせる作品である。戦争によって家族から引き離され、ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの寂しさや哀しさ、そして防空壕の中で家族の帰りを信じつつ、一人で「かげおくり」をしながら力つきてしまうやりきれなさなど、戦争を十分理解できないと思われる3年生にとっても、平和の大切さ、家族の絆の尊さを心から感じ取ることができるに違いない。

叙述の面でも、最初と最後の「かげおくり」が対照的に描かれ、場面構成がはっきりしていることから、ちいちゃん的心情がとらえやすい。また、会話文が多く、その前後に「つぶやきました」「きき返しました」などの表現が多いことや、体言止め・現在形の文末表現が折り込まれた状況説明や状況描写によって、登場人物の心情に迫りやすく、音読することを通して情感豊かに読み浸らせやすい作品である。

以上のことから、ちいちゃんの言動や各場面の様子を表す言葉に着目し心情を読みとる学習を通して、家族の絆や平和の尊さという主題について考えを深めていくのにふさわしい教材であると考え。

(2) 児童について

子供たちは、これまで「きつつきの商売」や「三年とうげ」で、叙述に即して場面の情景や登場人物の様子を想像しながら声に出して読む学習をしてきた。これらの学習を通して子どもたちは大切な文や言葉に着目して、場面や人物の様子を想像し、思い描いたことを話そうとする態度は育っている。しかし、人物のおかれている状況をふまえて様子を想像したり、場面同士を対比してその意味内容を読み取る力はまだ育っていない。音読では言葉の意味を考えながら音読するようになってきてはいるが、文章の内容を的確に表すように音読を工夫する点は弱い。また、漢字・語句の読みに抵抗があり、読みがスムーズに運ばない子が2, 3名いる。

(3) 指導について

指導にあたっては、ちいちゃんのおかれている状況や心情を中心に読み取りを進めていきたい。そのためにちいちゃんの会話や行動に視点をあてたり、ちいちゃんのおかれている場面の状況を読み取ったりしながら、その時の心情を読み取らせていきたい。また、この作品で対照的に描かれている二つの「かげおくり」や「戦争中と戦後の平和な生活」について、その共通点や相違点に気づかせ、読みを深めさせていきたい。

一人学びの段階では、重要な語句や文を見つけてサイドラインを引いたり視写・書き込みをしたりしながら、叙述に即しての読みを深めさせていくようにしたい。学び合いの段階では、一人一人の考えを交流し合いながら読みを広げさせ、ちいちゃんのおかれている状況を思い起こさせたり、他の場面と比べたりしながら、読み進めることができるように支援していきたい。

音読に関しては、「ました」で淡々と重ねていく過去形の文末表現の中に時折用いられる「～しています」という現在形の表現が、読者の視点を「ちいちゃん」の視点と重ねて合わせる効果を生み出していることに気づかせ表現に生かしていけるようにしたい。

3 単元目標

場面の様子を叙述に即して想像しながら読み、感想を深める。

4 評価規準

【関心・意欲・態度】 戦争のことを書いた他の物語を進んで探し、読書の幅を広げようとする。

【書くこと】 戦争のことを知っている人にこの物語を紹介する目的で書くことができる。

【読むこと】 ・場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。

・場面のようにすがよく分かるように声に出して読むことができる。

【言語事項】 叙述に関わる言葉の意味に気をつけることができる。

5 指導計画（読むこと8 書くこと4 12時間扱い）

過程	時	指導目標	学習活動	重点指導の内容
つかむ	1	「ちいちゃんのかげおくり」を読み、学習のめあてを決めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 一読後、戦争について話し合い、作品の背景をとらえたり、難語句の意味を考えたりする。 全文を読んで簡単な感想を書く。全体を5つに分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 難語句としてあげられた言葉が理解できるように写真や資料を提示する。 時、場所、登場人物、できごとを簡単にまとめさせる。
	2		<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに感想を書き、心に残ったことを話し合う中で、あらすじをとらえる 学習計画をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> この話を知らない人に教えるという相手・目的意識をもって書けるようにする。
ふかめる	3	場面の様子を想像しながら読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 出征前日の家族の様子を読み深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 四人の様子から、家族の仲の良さ、子どもたちの喜び、両親の不安を読み取らせる。
	4		<ul style="list-style-type: none"> 父の出征の日や出征後の家族の様子を読み深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 前の場面との違いをから戦況の悪化が理解できるようにする。
	5		<ul style="list-style-type: none"> 空襲の様子や、家族と離れてひとりぼっちになってしまうちいちゃんの様子を読み深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 空襲の中を逃げるちいちゃんの不安、恐れ、心細さを想像させ、場面の様子をより深く理解できるようにする。
	6		<ul style="list-style-type: none"> ひとりぼっちで家族の帰りをひたすら待つちいちゃんの様子を読み深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ちいちゃん言葉や動作、周りの様子の書き方など、読み取りの視点を具体的に与える。
	7		<ul style="list-style-type: none"> ひとりぼっちでかげおくりするちいちゃんの様子を読み深める。 1の場面と4の場面を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一場面との違いや情景の描写からちいちゃんの様子や願いを読み取ることができるようにする。
	8		<ul style="list-style-type: none"> 現在の平和な情景を読み取り、平和の大切さを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習してきたことと現在の公園の様子を比べさせながらちいちゃんの命が消えていく様子について感想をもたせる。
まとめる	9	戦争や平和に関する物語を紹介することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 戦争のことを書いた他の物語を読み、カードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介する本を選ばせ読書カードに書かせる。あらすじの書き方を想起し、感想も含めて簡潔に書けるようにする。
ひろげる	10	「ちいちゃんのかげおくり」を戦争を知っている人に紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介の方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰に何を伝えたいかをはっきりさせてから取り組ませる。 個人の選択を大事にしグルーピングする。 手紙の書き方のモデルをいくつか用意し、そのモデルに沿って書けるようにする。
	11		<ul style="list-style-type: none"> 紹介のための活動をする。 	
	12		<ul style="list-style-type: none"> 紹介につける手紙を書く。 	

6 本時の指導

(1) 本時の目標 かえるくんがとても幸せな気持ちに変わったことを読み取る。

(2) 展開 (6 / 14)

評価	個に応じた指導	学習活動と内容	単	直	間
課題がわかったか	<ul style="list-style-type: none"> どの部分をどのように工夫して読むのか、またその理由をふり返ってから読むようにする。 3つの役割(がまくん、かえるくん、地の文)を交代しながら練習させる。 	1 前時の学習を想起する。 第3場面の音読 2 学習課題を把握する。 2人ともとても幸せな気持ちになったのはなぜでしょう。	つかむ		10
会話文や手紙の内容が互いに幸せな気持ちになったわけが分かるか。	<ul style="list-style-type: none"> 一人読み、ペア読み、一斉読みをし練習を繰り返す。 シールをはる。「」の前後にある主語・述語に着目できるようにする。どこから分かるのか発表させ叙述の役割を確かめる。 6～7の挿絵と14～15の挿絵を見比べて、2人の気持ちの変化に気づかせる。(目、手の位置、口の形) がまくんの気持ちが大きく変わったきっかけを考えさせる。投げやりになっているがまくんを見ていられずに、ついに自分から言ってしまうかえるくんの言葉に注目させる。 手紙を視写し、がまくんが喜んだと思う言葉にサイドラインを引く。なぜその言葉を選んだのか理由などを書き込ませる。 P14の会話文の音読をする。 かえるくんの思いやりを感じているがまくんの幸せや、がまくんの喜ぶ姿を見ているかえるくんの幸せをとらえさせる。 	3 第4場面を読み、音読のしかたを考える。 本時の学習場面を音読する。 誰の会話か確認する。 場面の様子や気持ちを会話文から読み取る。 かえるくんが書いた手紙内容を読み取る。 幸せな気持ちですわっているふたりの気持ちを考える。	ふかめる		18
話し合いに参加し、読み取ったことを表現しようとしているか	<ul style="list-style-type: none"> どんなふうに読んだらいいかを考えて、グループで相談する。 グループで役割分担して練習する。 お互いの読みを聞き合い他のグループのよさを見つける。 	4 学習のまとめをする。 ・第4場面の音読練習をする。 ・お互いのグループで聞き合う。	まとめる		15
	<ul style="list-style-type: none"> 次時は最後の場面を学習することを予告する。 	5 次時の学習範囲を確かめる。	ひろげる		2

7 評価規準

【読むこと】

- A かえるくんからの手紙のことを聞いて感激するがまくんの様子と、それを見て喜ぶかえるくんの様子を、叙述や挿絵と結びつけて話したり、それを音読に生かすことができる。
- B かえるくんからの手紙のことを聞いて感激するがまくんの気持ちと、それを見て喜ぶかえるくんの様子を想像して音読することができる。
- Bにいたらない児童に対する手だて
グループの話し合いの中でかえるくんとがまくんの気持ちをとらえることができるようになる。

【言語についての知識・理解・技能】 会話文と地の文を区別することができる。

【関心・意欲・態度】 がまくんやかえるくんになりきって音読しようとする。

6 本時の指導

(1) 本時の目標 ひとりぼっちでかけおくりをするちいちゃんの様子から、家族と一緒にいたいというちいちゃんの願いを読み取る。

(2) 展開 (7 / 12)

直	間	単	学習活動と内容	個に応じた指導	評価
		つかむ	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を把握する。 ひとりぼっちでかけおくりをするちいちゃんの様子から、ちいちゃんの願いについて考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 家族と会いたい一心で防空壕にいたちいちゃんの様子や気持ちについて思い起こさせる。 ちいちゃんの言動を表す文や語句に注目して考えていくことを確認する。 	課題がわかったか
		ふかめる	3 第4場面を読み、ちいちゃんの様子を読み取る。 ちいちゃんの体が衰弱していることを読み取る。 かけおくりするちいちゃんの様子を読み取る。 ちいちゃんの家族に会いたいという願いについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ちいちゃんが一人でかけおくりをしているところに気をつけて音読させる。 ひとりぼっちになってからどのくらい時間がたったのかをおさえさせる。 ちいちゃんの体が弱っていることがどの表現から分かるか文中からさがさせる。 ひとりぼっちで衰弱していく中、家族のことを思い続けているちいちゃんの状態を十分理解させたい。 ワークシートを使い、1場面のかげおくりとの4場面のかげおくりの書き方を比べさせる。書き込む前に、文の該当するところにサイドラインを引かせる。 ちいちゃんがたった一人でかけおくりしていること、家族の声は幻聴であるために、表現が違ってくることに気づかせる。 書き込んだ自分の考えをもとにどんな気持ちでかけおくりをしたのかを話し合わせる。「ふらふらする足をふみしめて」に着目させ、そのような状態でなぜかけおくりをしたかを考えさせる。 	違いをさがし、自分の考えを書き込むことができたか。 ちいちゃん会いたいという願いを読み取ることができたか。
		まとめる	4 学習のまとめをする 第4場面の音読をする。 ・一人読み ペア読み	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことを思い浮かべながら音読できるように、どのように読みたいかを書かせてから音読させる。ペア読みでは、自分の考えを相手に話してから読むようにする。 	自分の考えを書き音読に生かしているか。
		ひろげる	5 次時の学習範囲を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は最後の場面を学習することを予告する。 	

7 評価規準

【読むこと】

- A 叙述を根拠にして、もう一度家族がそろってほしいというちいちゃんの願いを読み取り、音読に生かすことができる。
- B ちいちゃんの家族と会いたいという強い願いを読み取り、音読に生かそうとしている。
- Bにいたらない児童に対する手だて
1場面との違いに着目させ、具体的に対話しながら考えることができるようにする。
- 【言語についての知識・理解・技能】 叙述に関わる言葉の意味を理解している。
- 【関心・意欲・態度】 ちいちゃんの願いが分かるように音読を工夫しようとしている。